

TDB 景気動向調査(全国) — 2023年7月調査 —

2023年8月3日
 株式会社帝国データバンク 情報統括部
<https://www.tdb.co.jp>
 景気動向オンライン <https://www.tdb-di.com>

景気は小幅改善、季節もの消費が下支え

～ 人出の増加や猛暑がプラス材料も、インフレや人手不足が下押し要因に ～

(調査対象 2万7,768社、有効回答 1万1,265社、回答率 40.6%、調査開始 2002年5月)

調査結果のポイント

- 2023年7月の景気DIは前月比0.2ポイント増の45.2となり、2カ月ぶりに改善した。景気は、人出の増加や猛暑などで季節もの消費が下支えし、小幅ながらプラスに転じた。今後の国内景気は、設備投資の拡大や対面サービスをベースに緩やかな上向き傾向で推移するとみられる。
- 夏休みシーズンを迎え、人出の増加とともに対面サービスも回復がみられたほか、貸切バスやタクシー需要が活発化し、10業界中6業界で改善した。地域別では、10地域中7地域が改善、3地域が悪化した。半導体不足の緩和による生産能力の向上や一部地域における夏の観光関連需要の拡大が押し上げ要因となった。他方、『九州』を中心に大雨などの天候不順は悪材料だった。規模別では、「大企業」「中小企業」が2カ月ぶりに改善も、「小規模企業」は2カ月連続で悪化した。
- ガソリンスタンドの景気DIは、1.0ポイント減の35.9で2カ月連続の悪化。またレギュラーガソリンは、7月末まで10週連続で値上がりしている。

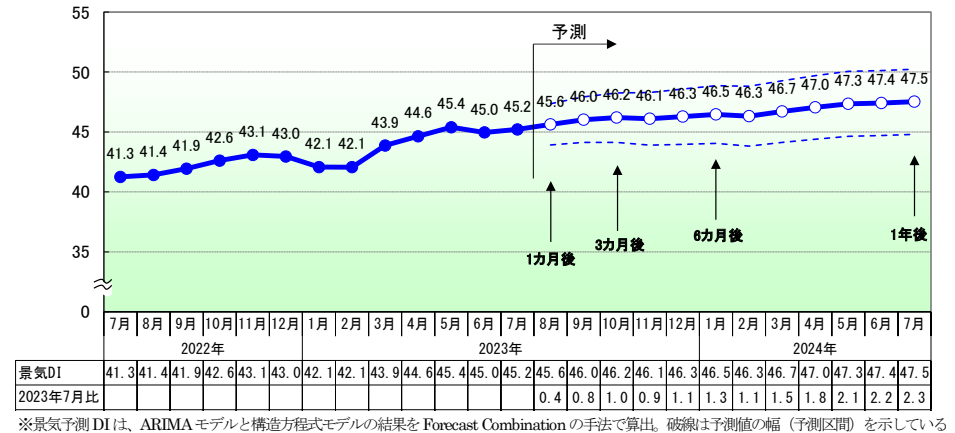
＜2023年7月の動向：小幅改善＞

2023年7月の景気DIは前月比0.2ポイント増の45.2となり、2カ月ぶりに改善した。景気は、人出の増加や猛暑などで季節もの消費が下支えし、小幅ながらプラスに転じた。

夏シーズンに入り、人出の増加とともに、インバウンドやレジャー需要が活発化したほか、飲食機会の広がりで酒場DIも2カ月ぶりに持ち直した。さらに猛暑による関連商品へのニーズが高まるなど、季節需要が好材料となった。また、半導体不足の緩和にともない自動車の生産回復なども景況感を押し上げた。観光産業では秋のイベントや来春に向けた予約が好調に推移した。他方、生活必需品の値上げのほか、電気代やガソリン・軽油を含むエネルギー価格の高騰、長期化する人手不足、大雨などはマイナス材料だった。

＜今後の見通し：緩やかな上向き傾向で推移＞

今後は、ポストコロナ時代に向けた経済・社会システムが再構築されていくなかで、最低賃金の引き上げを踏まえた賃上げの広がりや消費マインドの改善、インバウンドの拡大などがプラス材料となろう。またDXの推進や脱炭素化などに関連した設備投資の拡大が見込まれる。他方、生活必需品やエネルギー価格の高止まりなどでリベンジ消費の一巡がみられるほか、人手不足、地政学的リスクなども懸念される。ただし、金融緩和政策の運用の柔軟化による国内外経済に与える影響は注視し続ける必要がある。今後の国内景気は、設備投資の拡大や対面サービスをベースに緩やかな上向き傾向で推移するとみられる。



業界別:10 業界中 6 業界が改善、夏休みシーズンの開幕が押し上げ要因に

・夏休みシーズンを迎え、人出の増加とともに対面サービスも回復がみられた。貸切バスやタクシー需要が活発化したほか、気温の上昇により関連商品のニーズが高まった。原材料価格の高止まりや慢性的な人手不足はあるものの10業界中6業界で改善した。

・『建設』(47.8) …前月比1.0ポイント増。2カ月ぶりに改善。「再開発や新規企業の進出が決まっている」(鉄骨工事)というように堅調な民間需要が表れた。また、空調設備の新設および既設リニューアルの引き合いが旺盛といった声も聞かれ、暑さ対策や省エネ対応などが好材料だった。さらに、災害復旧工事も後押しした。他方、建設コストの上昇や担い手不足など構造的な悪材料は下押し要因としてあげられる。

・『製造』(41.5) …同0.2ポイント増。2カ月ぶりに改善。「輸送用機械・器具製造」(同1.6ポイント増)は自動車メーカーの生産回復が押し上げ要因となり、6カ月連続で上向いた。自動車の生産回復が幅広く波及し「化学品製造」(同0.2ポイント増)は2カ月連続で改善。また「北米の需要が絶好調。部品調達も順調となり月生産台数も過去最高を更新」(ポンプ・同装置製造)など海外需要が後押しし「機械製造」(同1.0ポイント増)は3カ月ぶりに改善した。他方、住宅着工数の停滞や大型の家具などの買い控えなどから「建材・家具、窯業・土石製品製造」(同0.5ポイント減)は3カ月連続で悪化した。

・『サービス』(51.7) …同0.1ポイント増。2カ月ぶりに改善。夏休みシーズンが到来、インバウンド需要も活発で「旅館・ホテル」(同1.5ポイント増)は3カ月ぶりに改善に転じた。「飲食店」(同2.0ポイント増)も「夜の宴会需要が増えている」(酒場、ビヤホール)というように2カ月ぶりに改善。また、「情報サービス」(同0.2ポイント増)は引き続きIT投資が旺盛で6カ月連続で上向いた。他方、「広告関連」(同0.2ポイント減)は「件数はそれほど減少していないが、1件あたりの予算が据え置きもしくは減少している」(広告代理)といった声が聞かれ2カ月ぶりに悪化。光熱費や人件費などの経費上昇が負担といった声も多い「医療・福祉・保健衛生」(同0.6ポイント減)は3カ月ぶりに悪化した。

・『小売』(41.9) …同0.1ポイント減。3カ月連続で悪化。ガソリン価格が10週連続で値上がりし「必要最低限の購入傾向が強まる」(ガソリンスタンド)といった声も聞かれる「専門商品小売」(同1.3ポイント減)は6カ月ぶりに悪化に転じ、『小売』全体を0.4ポイント押し下げた。値上げへの抵抗が大きい「飲食料点小売」(同0.4ポイント減)は2カ月連続で悪化した。他方、気温の上昇による夏物衣料が好調な「繊維・繊維製品・服飾品小売」(同1.0ポイント増)は3カ月連続で改善。省エネニーズの高まりやエアコン需要などが活況を迎える「家電・情報機器小売」(2.7ポイント増)は2カ月ぶりに改善した。

		22年7月	8月	9月	10月	11月	12月	23年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	前月比
農・林・水産		36.3	35.9	35.8	36.4	37.7	37.9	37.4	38.9	41.6	42.2	44.8	46.7	42.5	▲ 4.2
金融		41.9	41.7	43.6	43.2	44.5	44.3	44.8	43.3	44.0	45.0	47.8	48.1	47.4	▲ 0.7
建設		43.1	43.3	44.0	44.2	44.9	44.6	44.1	43.7	45.5	45.6	46.9	46.8	47.8	▲ 1.0
不動産		44.7	44.8	45.3	44.0	45.6	44.8	46.1	46.3	47.5	49.6	50.7	50.3	48.8	▲ 1.5
製造	飲食料品・飼料製造	36.7	36.1	35.5	38.2	38.8	38.3	38.1	37.0	41.1	42.0	43.7	43.6	43.1	▲ 0.5
	繊維・繊維製品・服飾品製造	36.1	32.6	36.2	35.7	36.5	37.9	37.7	39.0	38.6	41.0	42.1	42.0	43.6	▲ 1.6
	建材・家具・窯業・土石製品製造	40.8	39.8	40.2	40.9	41.9	41.0	38.0	37.6	37.0	39.7	39.0	38.4	37.9	▲ 0.5
	パルプ・紙・紙加工品製造	37.5	36.6	38.0	40.4	40.2	39.2	39.8	36.6	38.6	37.6	38.6	35.8	36.1	0.3
	出版・印刷	29.1	29.6	30.0	31.8	32.9	32.4	31.7	31.6	34.3	33.9	35.4	33.9	33.4	▲ 0.5
	化学品製造	41.8	42.6	42.3	40.8	40.8	41.5	40.3	39.2	40.1	41.0	40.6	41.6	41.8	0.2
	鉄鋼・非鉄・鉱業	42.9	42.7	43.0	43.9	43.6	43.1	41.7	41.0	41.9	41.1	40.9	40.4	40.7	0.3
	機械製造	46.3	46.2	45.4	45.8	45.9	44.9	43.3	43.7	43.4	43.8	42.9	41.9	42.9	▲ 1.0
	電気機械製造	44.7	44.2	45.2	44.8	45.4	44.5	43.3	43.2	42.8	43.2	43.1	43.9	42.9	▲ 1.0
	輸送用機械・器具製造	40.3	41.2	40.2	42.2	42.1	41.0	38.7	39.6	41.2	41.5	43.0	44.6	46.2	▲ 1.6
	精密機械・医療機械・器具製造	48.5	46.5	46.2	46.1	46.1	46.3	46.5	49.0	46.8	45.6	46.2	46.8	45.4	▲ 1.4
	その他製造	37.8	38.2	37.5	35.4	35.9	37.0	39.1	36.1	40.8	41.9	42.7	42.3	43.8	▲ 1.5
全体		41.3	41.0	41.1	41.6	41.9	41.5	40.4	40.0	41.0	41.4	41.5	41.3	41.5	0.2
卸売	飲食料品卸売	37.0	35.6	35.8	37.4	38.8	38.2	37.5	38.3	42.1	44.3	45.2	44.9	46.4	▲ 1.5
	繊維・繊維製品・服飾品卸売	29.9	29.9	29.9	32.4	33.1	34.0	34.7	35.9	38.0	41.9	43.1	39.4	39.5	0.1
	建材・家具・窯業・土石製品卸売	38.6	38.5	37.5	39.8	39.5	40.2	38.3	37.2	38.0	39.1	38.4	37.3	38.4	▲ 1.1
	紙類・文具・書籍卸売	33.0	33.5	34.5	37.1	37.0	33.8	34.8	35.6	37.3	37.9	40.3	36.5	38.2	▲ 1.7
	化学品卸売	43.5	43.0	43.4	42.6	43.8	43.5	42.8	41.7	43.5	44.9	46.8	45.3	45.2	▲ 0.1
	再生资源卸売	40.9	39.6	47.0	46.3	43.5	46.2	43.3	43.2	41.7	43.5	40.4	38.9	42.2	▲ 3.3
	鉄鋼・非鉄・鉱業卸売	39.3	39.3	39.8	39.7	40.2	39.9	38.5	37.1	37.8	37.9	38.1	37.5	37.9	0.4
	機械・器具卸売	43.1	42.6	43.3	44.1	44.1	43.8	43.0	43.3	45.2	45.2	46.0	45.4	45.3	▲ 0.1
	その他の卸売	37.7	37.7	38.2	39.0	39.6	40.9	40.0	40.9	42.3	43.9	44.9	43.2	42.6	▲ 0.6
	全体		39.5	39.2	39.6	40.6	41.0	40.1	40.0	41.1	41.9	42.9	43.7	42.5	42.9
小売	飲食料点小売	40.3	39.9	40.2	39.6	43.2	42.2	42.3	40.6	42.7	49.1	49.7	46.6	46.2	▲ 0.4
	繊維・繊維製品・服飾品小売	37.7	33.6	34.9	38.7	38.1	35.4	34.2	35.7	39.7	36.6	38.3	40.4	41.4	▲ 1.0
	医薬品・日用雑貨品小売	37.1	41.9	39.5	38.9	40.6	39.0	37.2	38.5	42.9	47.8	47.4	45.9	45.3	▲ 0.6
	家具類小売	35.2	36.1	40.0	37.8	36.2	31.0	34.2	33.3	39.5	38.1	34.7	33.3	32.5	▲ 0.8
	家電・情報機器小売	36.7	32.7	37.1	35.1	35.3	37.2	36.3	37.5	40.2	37.8	40.5	38.6	41.3	▲ 2.7
	自動車・同部品小売	32.4	35.9	38.8	37.6	37.2	35.3	38.2	38.7	40.8	44.0	41.5	40.6	40.9	0.3
	専門商品小売	33.2	34.7	34.0	33.5	35.4	34.8	34.4	35.3	38.6	39.0	39.4	40.1	38.8	▲ 1.3
	各種商品小売	40.2	38.0	36.1	41.3	41.4	42.6	42.5	41.0	43.6	47.8	45.8	44.9	48.1	▲ 3.2
	その他小売	36.9	42.3	32.1	36.5	44.9	41.1	42.3	44.8	41.1	41.7	41.1	45.8	46.2	0.4
	全体		35.7	36.3	36.7	36.8	38.2	37.4	37.5	37.7	40.6	42.5	42.1	42.0	41.9
運輸・倉庫		37.8	37.3	38.2	40.7	41.6	41.6	38.9	38.0	41.2	42.1	43.4	42.2	43.5	▲ 1.3
サービス	飲食店	34.0	28.1	31.8	39.0	39.1	41.5	38.5	42.4	49.8	50.8	56.7	53.6	55.6	▲ 2.0
	電気通信	47.0	47.9	51.9	52.4	50.0	48.3	47.6	44.4	52.8	52.8	58.3	53.3	60.4	▲ 7.1
	電気・ガス・水道・熱供給	37.7	35.9	36.1	31.1	32.3	36.7	32.4	32.1	39.7	38.9	44.0	44.1	44.8	0.7
	リース・賃貸	40.8	44.7	45.6	47.5	48.4	47.4	46.8	47.4	48.1	50.5	49.7	52.1	49.8	▲ 2.3
	旅館・ホテル	30.3	38.0	37.4	53.3	54.8	52.2	48.3	48.0	59.5	62.1	59.8	55.1	56.6	▲ 1.5
	娯楽サービス	40.7	40.1	42.2	45.0	43.8	43.2	42.1	44.1	50.9	48.9	50.4	47.6	49.3	▲ 1.7
	放送	43.0	38.3	46.1	43.1	41.7	39.5	40.7	41.1	42.6	44.7	47.4	43.1	44.7	▲ 1.6
	メンテナンス・警備・検査	42.2	43.4	42.8	42.8	43.6	45.6	42.9	42.6	45.3	45.8	47.3	48.0	48.4	0.4
	広告関連	34.3	36.7	39.3	40.9	40.3	39.7	40.2	41.4	43.7	46.6	45.0	45.0	44.8	▲ 0.2
	情報サービス	51.5	52.7	53.0	52.3	53.0	53.6	53.2	53.8	55.5	55.8	56.2	56.8	57.0	0.2
	人材派遣・紹介	46.5	49.8	47.4	48.8	46.5	50.0	48.5	47.9	47.3	49.6	50.7	52.0	52.0	0.0
	専門サービス	48.7	48.3	49.4	49.0	48.8	48.7	48.5	49.2	50.1	50.9	52.3	51.7	52.2	0.5
	医療・福祉・保健衛生	42.5	41.2	41.7	43.2	43.6	42.8	42.9	41.5	42.2	41.8	44.6	44.8	44.2	▲ 0.6
	教育サービス	38.8	39.7	43.7	42.1	42.8	41.2	38.4	41.9	44.4	38.4	42.2	41.4	40.7	▲ 0.7
	その他サービス	42.4	41.2	42.8	43.3	43.5	44.0	42.2	44.3	46.5	48.6	47.5	49.2	48.2	▲ 1.0
	全体		44.4	45.4	46.3	47.1	47.3	47.7	46.6	47.4	50.0	50.8	51.6	51.6	51.7
その他		36.6	38.3	37.2	37.9	38.2	36.7	36.5	37.0	38.2	39.2	41.2	39.8	40.9	▲ 1.1
格差(10業界別『その他』除く)		9.0	9.5	10.5	10.7	9.6	10.3	9.2	9.7	9.4	9.4	10.1	10.3	10.2	▲

※網掛けなしは前月比改善または増加、黄色の網掛けは前月比横ばい、青色の網掛けは前月比悪化または減少を示す

規模別:「大企業」「中小企業」が2カ月ぶりに改善、大手企業がけん引役に

- ・「大企業」「中小企業」が2カ月ぶりに改善も、「小規模企業」は2カ月連続で悪化した。大手でインバウンド需要などを受けた一方、小規模企業は業界間で景況感が二分化していた。
- ・「大企業」(48.6) …前月比0.9ポイント増。2カ月ぶりに改善。『建設』は都市圏における再開発事業が活発なほか、『不動産』は貸し会議室等の稼働率が好調。また、行動制限の緩和やインバウンド需要の増加は、大手宿泊業やレジャー関連に好材料となった。
- ・「中小企業」(44.6) …同0.1ポイント増。2カ月ぶりに改善。物流量の増加による貨物輸送や飲酒機会の広がりにもなるタクシーなどの利用拡大で『運輸・倉庫』が2カ月ぶりに上向いた。他方、物価高のなかで木材価格の下落を受け『農・林・水産』は低調だった。
- ・「小規模企業」(43.4) …同0.2ポイント減。2カ月連続で悪化。『不動産』はエネルギーや建設資材の価格高騰などが続き、2カ月連続で悪化した。他方、秋や来春の行楽シーズンに向けた旅行予約が小規模な代理店等にプラス材料となった。

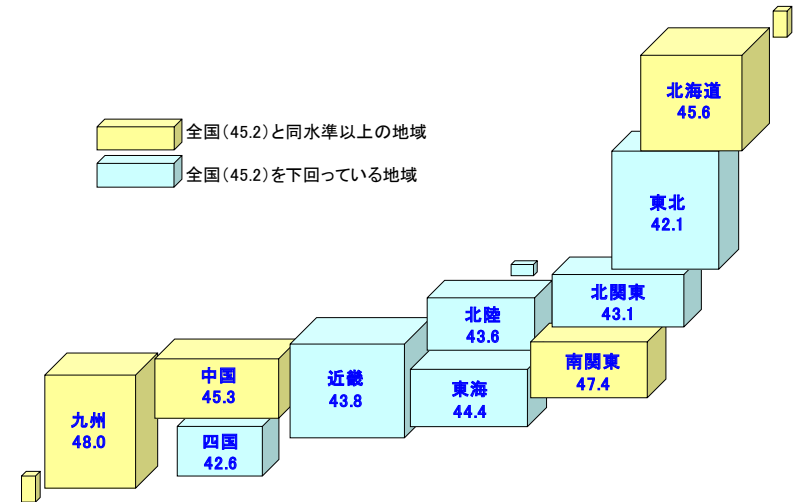
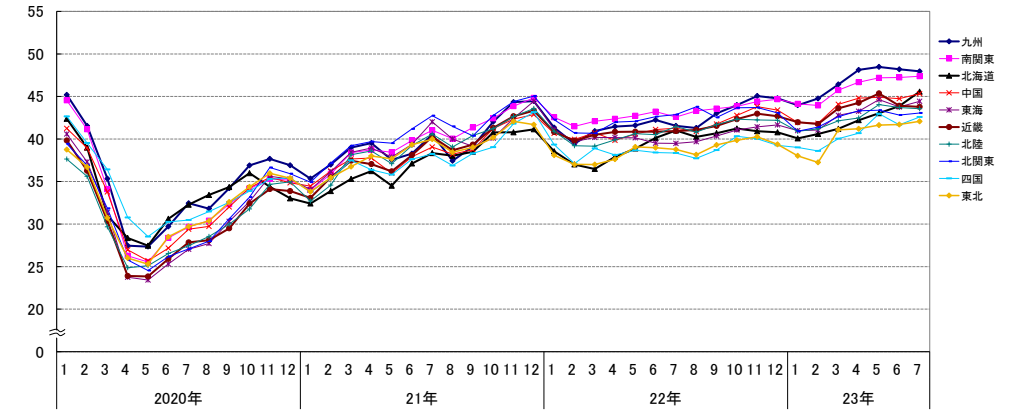
	22年7月	8月	9月	10月	11月	12月	23年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	前月比
大企業	43.4	43.8	43.6	44.2	45.0	44.8	44.8	44.2	46.1	47.3	48.1	47.7	48.6	0.9
中小企業	40.8	41.0	41.6	42.3	42.7	42.6	41.6	41.7	43.5	44.2	44.9	44.5	44.6	0.1
(うち小規模企業)	39.7	39.8	40.7	41.1	41.4	41.3	40.4	40.9	42.4	42.9	43.9	43.6	43.4	▲0.2
格差(大企業-中小企業)	2.6	2.8	2.0	1.9	2.3	2.2	3.2	2.5	2.6	3.1	3.2	3.2	4.0	

※網掛けなしは前月比改善または増加、黄色の網掛けは前月比横ばい、青色の網掛けは前月比悪化または減少を示す

地域別:全10地域中7地域が改善、観光地で上向くも、天候不順は悪材料に

- ・『北海道』『北関東』『東海』など10地域中7地域が改善、『九州』など3地域が悪化した。一部地域における夏の観光関連需要の拡大や、半導体不足の緩和などは域内主力産業の押し上げ要因となった。他方、『九州』を中心に大雨などの天候不順は悪材料だった。
- ・『北海道』(45.6) …前月比1.7ポイント増。6カ月連続で改善。札幌など都市部のほか、道東・日胆エリアがいずれも改善した。夏シーズンに入り観光産業が引き続き好調だったほか、飲食料品など『製造』は5カ月連続で上向いた。
- ・『北関東』(43.1) …同0.3ポイント増。2カ月ぶりに改善。域内5県のうち「栃木」「長野」「群馬」の3県が改善した。「受注物件が増えている」など『建設』の持ち直しが目立つなかで、物流量の拡大が好材料な『運輸・倉庫』も4.5ポイント増と大幅に上向いた。
- ・『東海』(44.4) …同0.6ポイント増。2カ月ぶりに改善。域内4県のうち「岐阜」「愛知」の2県が改善した。「半導体不足が若干解消され、大手自動車メーカーの生産が急回復」など自動車関連が持ち直した。また「娯楽サービス」など個人消費関連も好調だった。

地域別グラフ(2020年1月からの月別推移)



	22年7月	8月	9月	10月	11月	12月	23年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	前月比
北海道	41.0	40.2	40.7	41.2	40.9	40.8	40.1	40.6	41.2	42.2	43.0	43.9	45.6	1.7
東北	38.8	38.1	39.3	39.9	40.3	39.4	38.0	37.2	41.1	41.2	41.6	41.7	42.1	0.4
北関東	42.9	43.8	42.5	43.7	43.7	43.1	40.9	41.4	42.6	43.3	43.4	42.8	43.1	0.3
南関東	42.6	43.3	43.6	43.8	44.4	44.7	44.1	43.9	45.7	46.7	47.2	47.2	47.4	0.2
北陸	41.5	40.8	41.7	42.3	42.2	42.2	40.9	41.2	42.1	42.5	44.0	43.7	43.6	▲0.1
東海	39.5	39.7	40.4	41.1	41.4	41.7	41.0	41.1	42.8	43.3	44.6	43.8	44.4	0.6
近畿	40.9	41.1	41.5	42.3	43.0	42.7	42.0	41.8	43.6	44.3	45.4	43.9	43.8	▲0.1
中国	41.3	40.9	41.8	42.8	43.8	43.4	41.9	41.8	44.1	44.8	44.9	44.7	45.3	0.6
四国	38.3	37.7	38.7	40.3	40.0	39.3	39.0	38.6	40.0	40.7	43.0	41.7	42.6	0.9
九州	41.5	41.3	43.0	44.0	45.1	44.8	44.0	44.8	46.4	48.1	48.5	48.2	48.0	▲0.2
格差	4.6	6.1	4.9	4.1	5.1	5.5	6.1	7.6	6.4	7.4	6.9	6.5	5.9	

※網掛けなしは前月比改善または増加、黄色の網掛けは前月比横ばい、青色の網掛けは前月比悪化または減少を示す

業界別の景況感企業の声1(農・林・水産～製造)

業界名	現在			先行き
	5月	6月	7月	
農・林・水産	44.8 ↑	46.7 ↑	42.5 ↓	<ul style="list-style-type: none"> ○ 後継者不足・高齢を理由に廃業する同業者がいるなかで機動力がある当社に仕事の依頼が多くなっており、売り上げは前年比増加(園芸サービス) ○ 売れ行きが好調。原材料の高騰の価格転嫁もできている(内水面養殖) × 木材価格は新型コロナ前よりも低水準になっている(森林組合) × 原材料価格が高騰している一方で、値上げができていない(養豚)
金融	47.8 ↑	48.1 ↑	47.4 ↓	<ul style="list-style-type: none"> ○ TSMC進出による好影響(投資業) ○ 新型コロナの5類移行による消費活動の盛り上がりや株価上昇などがプラス要因である(クレジットカード) × 長引く低金利で資金利益が減少するなか、コロナ関連融資の無利息期間の満了にともなう期前返済の動きで利益確保の困難さが増す(普通銀行)
建設	46.9 ↑	46.8 ↓	47.8 ↑	<ul style="list-style-type: none"> ○ 空調設備での新設および既設リニューアルの引き合いが旺盛である(冷暖房設備工事) ○ 石油化学・エネルギー関連企業の更新設備および脱炭素化への投資が増えてきている(はつり・解体工事) ○ 再開発や新規企業の進出が決まっている(鉄骨工事) ○ 災害関連工事が多い(一般管工事) × 資材・人件費の高騰があるなかで、資材の納期が非常に長い状態が続いている(給排水・衛生設備工事) × 工事量が乏しく、新規工事があると低価格での受注競争となっている。資材や労務費の高騰が価格に反映されていない(土木工事)
不動産	50.7 ↑	50.3 ↓	48.8 ↓	<ul style="list-style-type: none"> ○ ハウスメーカーの土地購入案件は前年より多少増加している(不動産代理業・仲介) △ 予約の必要なキャンプ場や屋内施設はまずまずだが、屋外の公園等は猛暑の影響で入客が少ない(不動産管理) × 地価の上昇や人件費など建築資金の上昇のほか、税金対策に係る金融機関の融資姿勢の厳格化が悪影響を及ぼし始めている(建物売買)
製造	41.5 ↑	41.3 ↓	41.5 ↑	<ul style="list-style-type: none"> ○ 某大手自動車メーカーの生産台数が安定してきた(自動車部分品製造) ○ 中国を除くインバウンド需要増のほか、東南アジア向け輸出の増加により好調である(食料品製造) ○ 暑い日が続き、夏物商品の売り上げ・出荷が好調(医薬品製剤製造) ○ 北米が絶好調。部品調達も順調となり月次の生産台数も過去最高を更新(ポンプ・同装置製造) × 円安による原材料価格の高騰、電気料金の異常な高値、また人手不足による人件費の上昇などマイナス要因が多い(水産練製品製造) × 住宅着工数の低迷による影響(造作材製造) × 円安の影響を受け値上げを行ったことに加え、生活必需品ではない商品に対する買い控えの動きにより、売り上げが減少した(金属製家具製造)

【判断理由】○=良いと判断した理由△=どちらでもない理由×=悪いと判断した理由

業界別の景況感企業の声2(卸売～サービス)

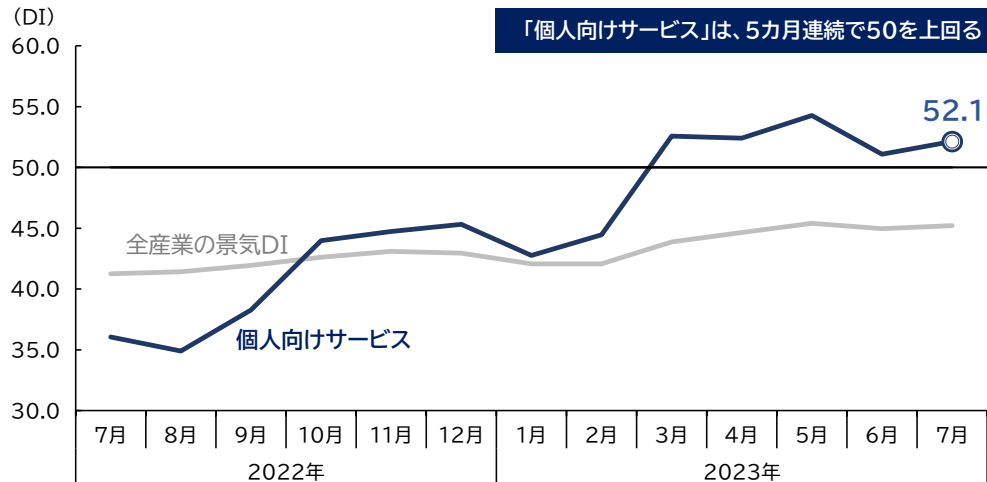
業界名	現在			先行き
	5月	6月	7月	
卸売	43.7 ↑	42.5 ↓	42.9 ↑	<ul style="list-style-type: none"> ○ 海外の需要の高まりにより、食品輸出は引き続き成長軌道にあると感じる(生鮮魚介卸売) ○ 半年後には半導体製造装置の設備が動き出すとの話が出てきている(非鉄金属卸売) ○ 新型コロナが終息傾向で対面する機会も増えていく(代理商, 仲立) × 資材費の高騰、納期遅延等が継続すると考える(一般機械器具卸売) × 為替が円安のままだと仕入価格が上がり利益を圧迫する(食肉卸売) × ウクライナ情勢による穀物高、資源価格の高騰や国内の人手不足による影響は続くと考え(コーヒー・茶類卸売)
小売	42.4 ↓	42.0 ↓	41.9 ↓	<ul style="list-style-type: none"> ○ 車両の入荷が早まってきた。中古車の相場も落ちつきつつある。引き合いは少しずつ増加傾向にある(自動車(新車)小売) ○ 国内需要、インバウンド需要とも回復傾向にある(菓子小売) ○ 夏の浴衣など、祭り関係の動きが非常に良い(各種商品通信販売) △ アフターコロナに向けて販売額が前年より伸長しているが、原料費、光熱費、人件費等が上昇し、経営を圧迫している(各種商品小売) × 燃料油の補助金の随時撤廃で価格が上昇。生活必需品等も値上がりしているため、家計はなかなかお金を使えないと考える(ガソリンスタンド) × 個人顧客は値上げへの抵抗が予想以上に大きい(料理品小売)
運輸・倉庫	43.4 ↑	42.2 ↓	43.5 ↑	<ul style="list-style-type: none"> ○ 夜間の人出の増加のほか、暑さで短距離でも乗車する乗客が多いため、1台あたりの単価は新型コロナ前より上昇(一般乗用旅客自動車運送) ○ インバウンドが復調してきた。忙しくて要員不足になっている(一般貸切旅客自動車運送) ○ 海外旅行の戻りは鈍いが、国内、インバウンドはほぼ回復(一般旅行) × 価格転嫁が十分にできず、中国等の景気低迷の影響も大きい(港湾運送) × トラック運送事業は、原油価格の高騰を輸送料金へ転嫁できていないうえに、2024年問題の関係で最悪な状況が継続している。今年は中小の運送会社が何社も倒産・廃業すると考える(一般貨物自動車運送)
サービス	51.6 ↑	51.6 →	51.7 ↑	<ul style="list-style-type: none"> ○ EV関連、省エネ関連は活況である(ソフト受託開発) ○ 5類移行により外出機会が増えたため、美容に投資する顧客が増えたのと過去の顧客の戻りが若干見受けられる。夏の繁忙期に入った(美容) ○ TSMCに關係する不動産関連は活況である(総合リース) ○ 夏休みに入り全国的に旅行の機運が高まっている(旅館) △ 原油高により再生油は旺盛傾向が続いているが、産廃処理は低迷の状態が続いている(産業廃棄物処分) × 外食客数が新型コロナ前に戻らず。リモートワーク・弁当持参により社員食堂の来店者数が減少。補助金カット、経費高騰で厳しい状況(一般食堂) × 燃料価格の高騰による利用回数減(マリナー)

【判断理由】○=良いと判断した理由 △=どちらでもない理由 ×=悪いと判断した理由

【今月のポイント（1）】 夏シーズンに関する企業を取り巻く環境

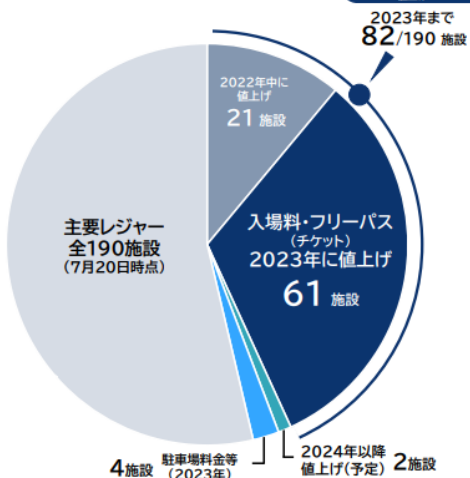
- 本格的な夏を迎え、好調・不調な業種が明確分かれてきた。「個人向けサービス」を中心に旅行関係やイベント関係は好調な声があがった
- 昨今のレジャー関係の値上げに加えて、記録的な猛暑が続けば外出機会が損なわれ、屋外施設の業種は厳しい状況に

個人向けサービス DI の推移



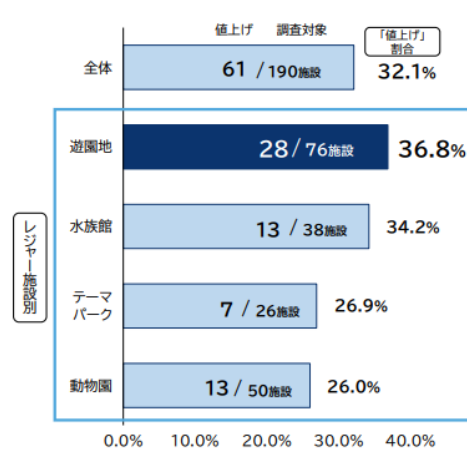
※「個人向けサービス」は、「飲食店」「旅館・ホテル」「娯楽サービス」「教育サービス」を統合した景気 DI

レジャー施設の値上げ動向



※帝国データバンク「2023年「主要レジャー施設（テーマパーク）」価格調査」（2023年7月20日）

レジャー施設別 2023年に値上げする割合



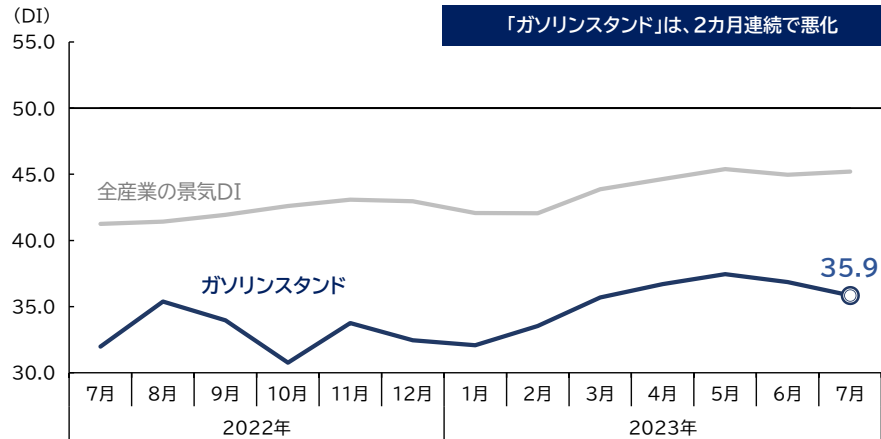
企業からのコメント

夏シーズンに関するコメント（抜粋）	業種	都道府県
・暑い日が続いており、夏物商品の売上・出荷が好調	医薬品製剤製造	大阪府
・夏休みとお盆の時期でもあり、おそらくは観光業に関連する業種は盛り上がりそう	一般貨物自動車運送	福島県
・夏の浴衣など祭り関連の動きが非常に良い	各種商品通信販売	三重県
・夏休みに入り全国的に旅行の機運が高まっている	旅館	秋田県
・暑さで短距離でもタクシーに乗車する人が多い	一般乗用旅客自動車運送	東京都
・ここ3年程中止になっていた祭りや花火大会も実施されるまでになっており、地域全体が活気づいている	パッケージソフトウェア	岩手県
・テーマパークなどレジャー施設での入場者、消費が大きく回復している。半面値上げによる数量減がみられる	金属容器等製造	埼玉県
・屋外の公園は猛暑の影響で入場者が少ない。海水浴場は昨年に続き開設することができたが、レジャーの多様化の影響で、海水浴離れが目立つ	不動産管理	福井県
・夏休みが始まったが、連日の暑さで観光客が少ない	木材・竹材卸売	島根県
・水産品の消費が落ち込む夏場は、厳しい状況が待ち構えている可能性がある	生鮮魚介卸売	大阪府

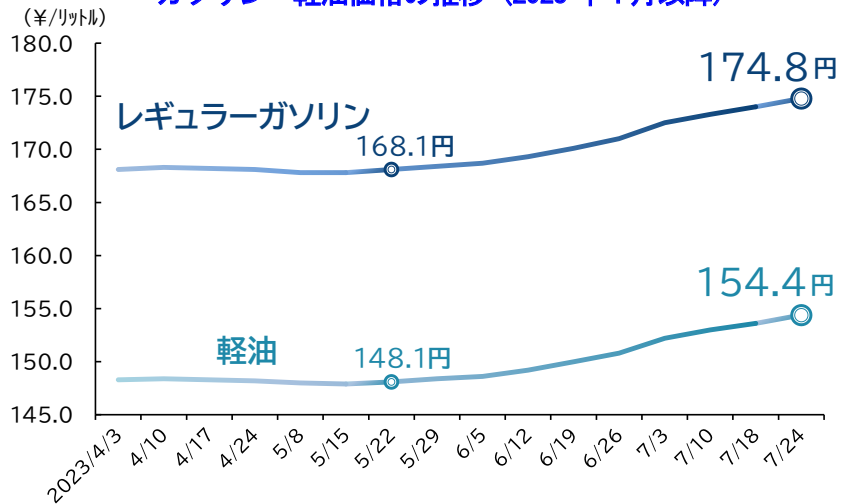
【今月のポイント（2）】 燃料・ガソリン価格の動向

- 7月のガソリンスタンドの景気DIは、1.0ポイント減の35.9で2カ月連続の悪化となった
- レギュラーガソリンは、7月末まで10週連続で値上がりした。燃料油価格激変緩和補助金の段階的な縮減で更なる値上がりも危惧される

「ガソリンスタンド」の景気DIの推移



ガソリン・軽油価格の推移（2023年4月以降）



※経済産業省 資源エネルギー庁「給油所小売価格調査（ガソリン、軽油、灯油）」（2023年7月26日）

企業からのコメント

燃料・ガソリン価格に関する企業からの声（抜粋）	業種	都道府県
・燃料油価格激変緩和補助金の減額により、燃料油価格の高騰で客足が遠のく	ガソリンスタンド	岐阜県
・政府の燃料補助金の縮小により、燃料販売価格は徐々に上がってきている。9月に補助金が廃止となると更に上がり、必要最低限の購入傾向が強まる	ガソリンスタンド	静岡県
・燃料の補助金が縮小し、値上がりしていることが一番の原因である。ただし、他のモノも値上がりしているので一般家庭の人は、なかなかお金が使えないと思う	ガソリンスタンド	栃木県
・燃料油の販売数量は減少傾向であるが、口銭は増加傾向にある	石油卸売	東京都
・6月よりガソリン補助が段階的に減額され、9月末までの原油高騰は継続されることや円安により更なる物価上昇も懸念される	一般貨物自動車運送	福島県
・燃料費の高騰が続いて価格転嫁が進まない	一般貨物自動車運送	栃木県
・原油価格の高騰を輸送料金へ転嫁できておらず、2024年問題の関係で最悪な状況が継続されている	一般貨物自動車運送	宮崎県
・燃料高騰による利用回数が減少	マリーナ	大阪府
・電力料金や石油・ガソリン、食品等の値上げなどで消費意欲が減退していると思われる	木材・竹材卸売	山形県
・原油高により再生油は旺盛傾向が続いている	産業廃棄物処分	大阪府

調査先企業の属性

1. 調査対象(2万7,768社、有効回答企業1万1,265社、回答率40.6%)

(1) 地域

北海道	511	東海(岐阜 静岡 愛知 三重)	1,227
東北(青森 岩手 宮城 秋田 山形 福島)	761	近畿(滋賀 京都 大阪 兵庫 奈良 和歌山)	1,922
北関東(茨城 栃木 群馬 山梨 長野)	886	中国(鳥取 島根 岡山 広島 山口)	790
南関東(埼玉 千葉 東京 神奈川)	3,286	四国(徳島 香川 愛媛 高知)	380
北陸(新潟 富山 石川 福井)	574	九州(福岡 佐賀 長崎 熊本 大分 宮崎 鹿児島 沖縄)	928
合計			11,265

(2) 業界(10業界51業種)

農・林・水産	107	小売	飲食料点小売業	101	
金融	152		繊維・繊維製品・服飾品小売業	103	
建設	1,733		医薬品・日用雑貨品小売業	57	
不動産	459		家具類小売業	21	
製造	飲食料品・飼料製造業	327	家電・情報機器小売業	40	
	繊維・繊維製品・服飾品製造業	106	自動車・同部品小売業	84	
	建材・家具・窯業・土石製品製造業	222	専門商品小売業	221	
	パルプ・紙・紙加工品製造業	91	各種商品小売業	54	
	出版・印刷	154	その他の小売業	13	
(2,824)	化学品製造業	388	運輸・倉庫	522	
	鉄鋼・非鉄・鋳業	516	飲食店	87	
	機械製造業	468	電気通信業	8	
	電気機械製造業	301	電気・ガス・水道・熱供給業	16	
	輸送用機械・器具製造業	105	リース・賃貸業	107	
	精密機械・医療機械・器具製造業	73	旅館・ホテル	96	
	その他製造業	73	娯楽サービス	118	
	卸売	飲食料品卸売業	338	放送業	19
	繊維・繊維製品・服飾品卸売業	160	メンテナンス・警備・検査業	199	
	建材・家具・窯業・土石製品卸売業	301	広告関連業	106	
(2,606)	紙類・文具・書籍卸売業	93	情報サービス業	587	
	化学品卸売業	249	人材派遣・紹介業	91	
	再生資源卸売業	34	専門サービス業	314	
	鉄鋼・非鉄・鋳業製品卸売業	265	医療・福祉・保健衛生業	123	
	機械・器具卸売業	840	教育サービス業	34	
	その他の卸売業	326	その他サービス業	221	
	その他			42	
合計			11,265		

(3) 規模

大企業	1,715	15.2%
中小企業	9,550	84.8%
(うち小規模企業)	(3,664)	(32.5%)
合計	11,265	100.0%
(うち上場企業)	(227)	(2.0%)

2. 調査事項

- ・景況感(現在)および先行きに対する見通し
- ・経営状況(売り上げ、生産・出荷量、仕入れ単価・販売単価、在庫、設備稼働率、従業員数、時間外労働時間、雇用過不足、設備投資意欲)および金融機関の融資姿勢について

3. 調査時期・方法

2023年7月18日～7月31日(インターネット調査)

景気動向指数(景気DI)について

■TDB 景気動向調査の目的および調査項目

全国企業の景気判断を総合した指標。国内景気の実態把握を目的として、2002年5月から調査を開始。景気判断や企業収益、設備投資意欲、雇用環境など企業活動全般に関する項目について全国2万7千社以上を対象に実施している月次統計調査(ビジネス・サーベイ)である。

■調査先企業の選定

全国全業種、全規模を対象とし、調査協力の承諾が得られた企業を調査先としている。

■DI 算出方法

DI(ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index))は、企業による7段階の判断に、それぞれ以下の点数を与え、これらを各選択区分の回答数に乗じて算出している。

選択区分	非常に良い	良い	やや良い	どちらともいえない	やや悪い	悪い	非常に悪い
点数	6	5	4	3	2	1	0
各区分の回答数	N_6	N_5	N_4	N_3	N_2	N_1	N_0

$$\text{景気DI} = \frac{(\text{各区分点数} \times \text{各区分回答数}) \text{の合計}}{\text{有効回答数 } N} \times \frac{1}{6} \times 100 = \frac{\sum_{i=0}^6 i \times N_i}{N} \times \frac{1}{6} \times 100$$

景気DIは、50を境にそれより上であれば「良い」、下であれば「悪い」を意味し、**50が判断の分かれ目**となる(小数点第2位を四捨五入)。また、企業規模の大小に基づくウェイト付けは行っており、**「1社1票」**で算出している。

■企業規模区分

企業の多様性が増すなか、資本金や従業員数だけでは計りきれない実態の把握を目的に中小企業基本法に準拠し、全国売上高ランキングデータを加え下記の通り区分している。

業界	大企業	中小企業(小規模企業を含む)	小規模企業
製造業その他の業界	「資本金3億円を超える」かつ「従業員数300人を超える」	「資本金3億円以下」または「従業員300人以下」	「従業員20人以下」
卸売業	「資本金1億円を超える」かつ「従業員数100人を超える」	「資本金1億円以下」または「従業員数100人以下」	「従業員5人以下」
小売業	「資本金5千万円を超える」かつ「従業員50人を超える」	「資本金5千万円以下」または「従業員50人以下」	「従業員5人以下」
サービス業	「資本金5千万円を超える」かつ「従業員100人を超える」	「資本金5千万円以下」または「従業員100人以下」	「従業員5人以下」

注1: 中小企業基本法で小規模企業を除く中小企業に分類される企業のなかで、業種別の全国売上高ランキングが上位3%の企業を大企業として区分

注2: 中小企業基本法で中小企業に分類されない企業のなかで、業種別の全国売上高ランキングが下位50%の企業を中小企業として区分

注3: 上記の業種別の全国売上高ランキングは、TDB産業分類(1,359業種)によるランキング

■景気予測DI

景気DIの先行きを予測する指標。ARIMAモデルに、経済統計やTDB景気動向調査の「売り上げDI」、「設備投資意欲DI」、「先行き見通しDI」などを加えた構造方程式モデルの結果をForecast Combinationの手法により景気予測DIを算出している。

【問い合わせ先】株式会社帝国データバンク 情報統括部

担当: 窪田、池田、石井 Tel: 03-5919-9343 e-mail: keiki@mail.tdb.co.jp

©TEIKOKU DATABANK, LTD. 2023

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。